

学力向上に向けた取組

1 課題

- 基礎的・応用的な学力の定着に向けて
- 言語活動を充実させた授業の工夫

2 課題解決の具体策

- ①個々の児童の学習到達度に合わせた、基礎力・応用力を高める学習の工夫
- ②伝え合う言語活動の充実を図る学習展開の工夫
- ③基本的な話し方聞き方の徹底

3 取組の概要

①について

自己評価を活用した授業評価により、子どもの学習状況、到達度を適切に把握し、指導の改善をしてきた。また、一人ひとりの子どもの思いや願い、つまづきを把握し、個別の指導や支援に生かしてきた。

算数科では、5、6年生でチームティーチングによる学習活動を行い、基礎的な学力の定着していない子への指導に当たっている。また、基礎学力の定着している子については、学習プリントを活用するなど発展的な学習内容を盛り込んでいた。学習プリント朝学習では、国語・算数の個に応じた学習プリントに取り組んでいる。週に一度朝に計算タイムを設け、担任の指導のもと基礎学力の定着を図っている。読書週間を月に1週間取り入れることにより、児童の本に親しむ環境を整えている。



②について

国語科においては、自分の考えを記録し、論述するといった言語で表現する学習活動を多く取り入れている。

また、算数科においては、計算の仕方や面積の求め方など言葉、数式、図を用いて説明したり、伝え合ったりの活動を多く取り入れている。算数科による言語活動の充実には、現在本校の研究のテーマとしている。



外国語活動は担任だけでなく、AETや外国語サポートターの協力もチームティーチングで学習をすすめていく。あいさつや簡単な会話を取り入れた児童の興味関心のある授業を工夫している。担任と講師との会話を模範に子どもたちに耳で慣れさせ、言葉で表現する活動もしてきた。

③について

各教室に、学年の発達段階に合わせた「学習のきまり」を掲示し、授業中の約束や発言の仕方、話の聞き方を徹底してきた。どの学年、学級においても姿勢や挙手の仕方、発表の仕方が徹底されてきている。また、日常生活の中で言語環境を整えることにも力を入れている。

4 成果と課題

- 自己評価を活用した授業評価により、子どもの学習状況、到達度を適切に把握し、指導の改善を図ることができた。
 - チームティーチングを取り入れ、個別にじっくりと指導に当たることにより理解できる児童が増えている。
 - 学習展開の工夫や発表の仕方を提示するなどにより、児童に発言しやすい環境を整えてきた。
- これらの取組を行うことにより一人ひとりに高い学習効果が得られた。

